



来し方を辿れば桜隠しかな	千田 百里
陽炎となるまで人を見送りぬ	辻 美奈子
つつましき鳥の巢僧に応量器	大畑 善昭
花月夜死が宿題のやうにあり	田辺 博充
濃淡の日を織る水脈の花筏	甲州 千草
しやぼん玉太陽の色吹かれゆき	田所 節子
奔放が風の本心春一番	峰崎 成規
淋代の春の濤とて低からず	小野 寿子
金ボタン残る針箱卒業期	内山 花葉
水隠れにぬぬやうである春の鴨	大沢美智子
俳諧に棲み看経の亀といふ	井原 美鳥
裏木戸の鍵は棕欄繩蝶の昼	平松うさぎ
はらみねこ島の主のごと歩む	荒井千佐代
遠とふは美しき距離春の虹	七田 文子
切り株にたつぶりの雨イースター	多田ユリ子
大卯波空のはじまるところより	栗坪 和子
折詰の退屈さうな桜鯛	小林 陽子
木々はみな自由自由と芽吹きたる	村上 葉子
咲きさうで咲かぬさくらに似た二人	中村 重幸
剪定の銕いのちの整へり	澤田 英紀
春雷や砂をはなさぬ貝の黙	浜田はるみ
朴の芽を抱く精霊の吐息かな	鈴木 基之
剣山のあるやのごとく蘂ゆる	坂本 緑
白こそは発信の色花辛夷	清水佑実子
白木蓮空を言祝ぐやうに満つ	須賀ゆかり
さくらさくら香りは空に忘れしか	竹田 絹子
陽炎に入りてかげろふ見失ふ	工藤 邦子
春風に色のたゆたふ花手水	吉村さよ子
のどけしや一打の余韻時の鐘	久間 早苗
さ緑にけむりて雨の遠柳	池田 文枝

沖 の 水 脈

